

第5学年「外国語活動」学習活動案

授業者 濱 雪乃

2月20日(木) 3階A室 9:00~9:40 話し合い(協議会) 10:00~11:45

1 活動名 This Is JAPAN!

2 活動について

当学年の子どもたちは11月に本学で学んでいる外国人留学生との交流会を行った。韓国、ベトナム、タイ、台湾、ドイツ、イタリア、イギリス、フランス、ルーマニアからの21名の留学生と、それぞれの国の文化について話したり、実際にいくつかの文化を教え合って体験したり、共に給食を食べたりして、計2時間ほど一緒に過ごした。

子どもたちは、「日本に来たばかりの留学生に、日本のことをいろいろと教えてあげたい」という思いをもち、伝えたいテーマが似ている仲間とグループをつくってそれぞれの思いを伝えようとした。そのテーマは、伝統遊び、昔話(「おむすびころりん」)、名所、伝統衣装、学校生活、流行、1日の生活(習慣)などであった。中には、「日本人の特徴」というテーマを選んだグループもあった。留学生の日本語が流暢であることに驚きながらも、ところどころで英語を用いながら発表をしたり、その後は同テーマについて留学生の国のことを教えていただいたり、ざっくばらんに会話をして過ごした。

交流会後の振り返りにおいて留学生から聞いたことを共有する中で、「昔話は日本だけのものだと思っていたら、韓国にもあったことに驚いた。日本の昔話には、最後にお金とか豪華なものがもらえるお話が多いと言われて、確かに!と思った。韓国では…」 「どうして給食の時に白衣を着るのかと聞かれて、それが日本だけだとは思わなかった」「日本の国旗の意味を聞かれたけれど答えられなかった」など、他文化を知ることによって自国の独自性に気がつく体験をした子どもたちが多くいたことが分かった。そこから生まれた「日本(人)を客観的にとらえてみたい」という思いを活かし、2回目の交流会に臨むこととした。そしてそこで得た気づきを活かし、3月に予定しているオーストラリアの小学生とのビデオ交流を行うことを期待している。

3 学習活動計画(5時間目/全9時間)

- 第1次 「日本」を知るための問いを決める。 …… 2時間
- 第2次 第2回留学生と交流会を行い、問いを明らかにする。また、それを共有する。 …… 2時間
- 第3次 オーストラリアの子どもたちに伝えたい「日本」とその表現を考え、準備をする。
…… 本時2/3時間
- 第4次 オーストラリアの子どもたちにビデオメッセージを送る。 …… 2時間

4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

伝えたいことを明確にし、それが伝わるようにするための表現を考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 ことば見つけの発表をする。(2名)	
2 伝えたい「日本」の各グループのテーマと、共通して使える英語表現を確認する。	・表現例を示す。 This is … / This is like … / We use … like this. / It's ….
3 グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 ・伝えたいことは何なのか。 ・相手に伝わるようにするためにはどうしたらよいか。 ・必要な英語表現は何か。	・必要に応じ、目的の確認をする場やコミュニケーションのポイントについて考えさせる場を設ける。 ・辞書及びタブレットを使うことができることを伝える。